

## ●EMぼかしの使い方

### 【バケツの選び方】

- (1) 空気が入らないこと 完全密閉
  - (2) 「液肥」を取り出せること  
(液肥をそのままにしておくと、せつかくの生ゴミが腐敗してしまいます)
- 以上2点をクリアするバケツを選んでください

### EMぼかし肥料専用容器



#### ワンポイント解説

- ・密閉できない容器や液肥を取り出せない容器を使うと、生ゴミが腐りやすくなることや、虫が発生する原因となります。

### 【作り方】 (1) 生ゴミは水切りしてバケツに入れます



#### ワンポイント解説

- ・大きな生ごみは小さく切ったり、卵の殻や貝殻は砕くなど、下準備をすると発酵がスムーズに進みます。
- ・水分の多い生ごみはネットに入れて絞ったり、一度天日で軽く乾燥させると腐敗や虫の発生を防ぐことができます。

#### ① ボカシ肥料専用容器に生ゴミを入れます。

生ゴミだけでもよいのだが、落ち葉や枯れ草、芝が手に入れば加えれば質のよい堆肥ができる。ケヤキ、クヌギ、ブナ、カシ、コブシなど葉肉が薄く、幅広い葉がよく向く。サクラやカキなど水分の多い葉は、分解が遅くなる。針葉樹やササなどの細い葉のものは、繊維がそのまま残って腐りにくい。油脂分の多いイチゴやマツも避ける。

### <入れてはいけないもの>

- 腐ってしまったもの、タバコの吸がら、コーヒーのフィルター、ラップ、ポリ容器など埋めても土にかえらないものは避けてください。
- (2) 生ゴミの上から「EMぼかし」をふりかけます。



#### ② ボカシ肥を均一にふりかけます。(10~20g程度)

通常は、生ゴミ1kg(三角コーナー1杯)に対してEMぼかし10~20gが目安です。(だいたい1握りが10~20g)

生ゴミにまんべんなく振りかかるように混ぜてください。夏場または魚や肉類など分解しにくいものを入れた時は、ぼかしを多めにかけてください。

振りかけ終わったら、上から押さえつけてもう一度水切りをし、空気を抜きます。生ゴミの上にサランラップ(中蓋)などをひくといいです。



#### ③ 蓋をしっかりとします。

ぼかしあへの臭いが香ばしい発酵臭であればうまくいっています。腐ったような気がした時は上から砂糖をパラパラと振りかけてください。微生物の活動が活発になります。白カビは成功している証拠なので発生していても大丈夫です。

### (3) 液肥の使い方



容器の底に水分(液肥)がたまります。1日1回この液肥を抜きます。(生ゴミの水分が少ない場合、液肥がでてこないことがあります。)

抜いた液肥は500~1000倍に薄めて土壌改良剤として、花や作物にかけたり、風呂、台所、洗面所の排水口やトイレに流すと、ぬめり・臭いがとれます。  
注: その日にとれた液肥はその日のうちに使い切ってください。

#### (4) 熟成

(1) から (3) を繰り返して、容器が生ゴミ一杯になったら、EMぼかしを混ぜた生ごみを熟成させるために、直射日光を避け、常温で温度変化の少ない場所に1～2週間置くとEM発酵肥料の完成です。

#### (5) EM発酵肥料利用の仕方

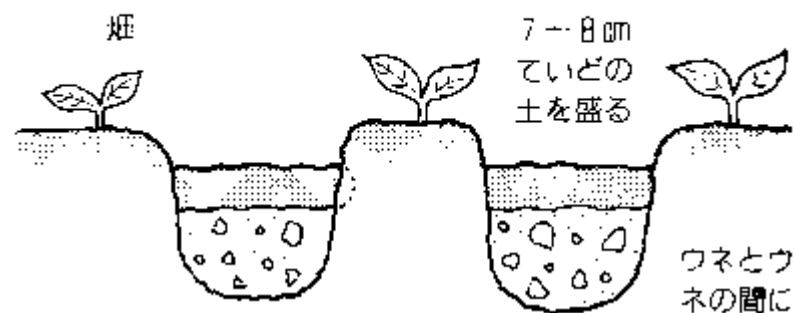
畑で使用する場合



植物の根にEM発酵肥料が直接ふれないように、株間に埋めるか畝間に埋めます。

殺菌剤、土壤消毒剤の使用は絶対にしないでください。EM菌が死んでしまいます。

#### ●土に埋め戻すときの注意点



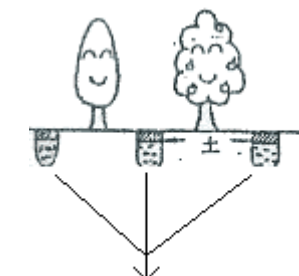
#### ワンポイント解説

- EM発酵肥料が作物や根に直接接触すると、作物が枯れる原因となってしまいます。
- 土をかぶせる量が少ないと、動物やハエなどが寄ってきますので注意してください。

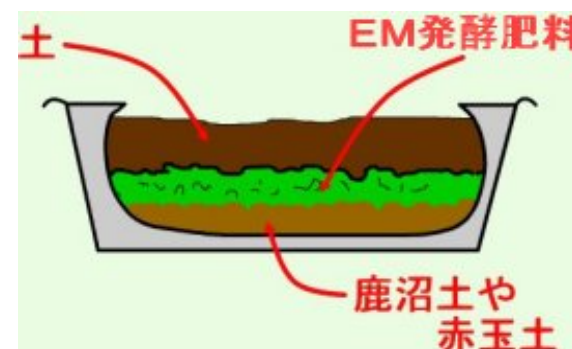
庭木に利用する場合



穴を掘って、EM発酵肥料と土とよく混ぜてから、上から土をかぶせます。長くおくと分解し形が完全になくなり、プランターなどの植込み用の土としてそのまま使うことができます。



プランターで利用する場合



プランターにEM発酵肥料を使用する場合は、まず下層に鹿沼土（もしくは赤玉土）を入れ、中層に土とよく混ぜ合わせたEM発酵肥料（プランター容量の3分の1～4分の1）を、さらに上層に土をかぶせ、過度な水分を保持するためビニールで表面を覆い一ヶ月以上経過してから、種や苗などを植えて下さい。

EM発酵肥料は、夏場で10日、冬場で30日ほどで土に戻ります。また、EM発酵肥料を何回か繰り返し土に入れていくと、コロコロした黒く良質な土になり、ミミズなどが発生することがありますが、これはよい土に生まれ変わった証拠です。